

## ルソーの「エミール」は、子どもの発達段階を無視した従来の教育方法を徹底的に批判した

小中一貫校は、小学生と中学生を「カ所」にまとめ、6年間を見通した一貫教育を進めるという試みは、

発達段階の大きく異なる小・中学生を、どう捉えたらいいのでしょうか。

ルソーの「エミール」から考えます。

小学生は「児童」と呼ばれ、中学生は「生徒」と呼ばれる。児童期は「ギャングエイジ」の時期で、群あつて子どもたちが遊ぶ。

中学生は青年期前期で、「チャムシップ」という時期で、少数の本当に仲の良い親しい人と深い関係を結びながら成長していく。

高校生以上は青年期で「ピア」。お互いの価値観や生き方など内面的なことも語り合うようになり、共通点だけでなく違いも受け入れられる。

心理学の都築学・中央大学名誉教授によれば、子どもは発達段階で大きく異なることがわかります。

ルソーの「エミール」は、当時の子どもの発達段階を無視した従来の教育方法を徹底的に批判しました。

今から260年も前

の「古典」ですが、「近代教育学のバイブル」として、今でも大きな影響を与えています。

ルソーの「エミール」によれば、

11歳までの年少期は「自然」の中で、「好奇心」による感覚や経験によって、自ら発見することが大切にされます。

12歳〜15歳の少年期は、論理的思考や理性が発達し、役に立つ「有用性」が学習意欲を引き出すと言います。

16歳〜20歳の青年期は、他人への哀れみや公共性、良心といった「社会性」を育てるとしました。

「名誉・権力・富・名声」といった社会的な評価から自分を測るのではなく、自分を測る

基準を自分の中にもっている「人を育てること」が、民主主義社会の基盤となると考えました。

さらにルソーの「エミール」は、生活は田舎で、教師と生徒が1対1で育ちます。

「人間はアリのようになり積み重なって生活するようにつくられていない。．．人間はあらゆる動物のなかで、群をなして生活するのにいちばんふさわしくない動物だ。羊の群のようにひしめきあつていく人間はすべて、たちまちのうちに滅びてしまふだろう。．．」

学校統廃合は、子どもを「数」として捉え、適正規模がなければ育たないと考えますが、ルソーは逆に、「一つと一つに集まれば集まるほど、いよいよ人間は墮落する。」と述べています。

不登校が増えている現状は、生徒がひしめきあつている学校に対する警鐘ではないでしょうか。



## ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

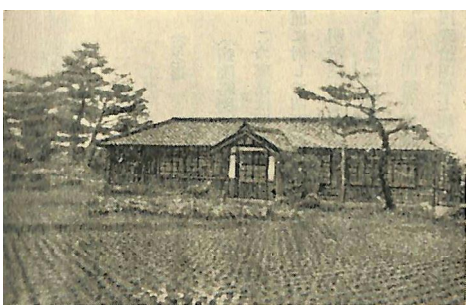
ていると言う。

避病院  
明治12年（1879）頃、庄内地方にコレラが発生した。藤島の状況は判らないが、その後もしばしば発生していた。明治28年（1895）、藤島村字川向54番地に伝染病院が建てられた。しかし、県から位置が不適當で建物の構造は不完全だなどと指摘され、明治32年（1899）に字川向72番地に移築した。

この病院は、ほぼ同じ場所に建てられたが、県立農学校設置の障害になるとして、明治34年（1901）12月14日、字川向72番地の2に、そのままの規模で移転した。

その後、明治36年（1903）、蒸気消毒所を増設した。伝染病予防法が明治30年（1897）に交付され、各地に伝染病院が建設されたが、長沼村にも明治33年（1900）建てられた。字宮東290番地に、1反8畝16坪の敷地に24坪、室数4（12坪）、収容人数12人の規模であった。

八栄島村には伝染病院等の記録はないが、地元で生まれ育った友だちの話によると、薬師堂の前から東に、お倉小路があつて、その突き当たりの畑地の中に、施設の規模は不明だが隔離施設があつたと、先輩古老から聞いていた。



昭和9年に建設された藤島村外6ヶ村組合立伝染病院（その後旧町営住宅地になった。藤島町史から

# 温海伝統こけしに注目 木地玩具も面白く



温海伝統こけし 内閣総理大臣賞

藤島下町在住の石黒清一氏が蒐集した伝統こけし展が、9月6日から10月15日(火)まで、東田川文化記念館で展示されています。

今回のテーマは「秋田と福島の伝統こけし」ですが、温海の職人の阿部進矢さんの作品が特に注目です。

温海伝統こけし工人3代目の阿部進矢さんによれば、系譜は土湯系の流れを汲むが、先代の常松の代に、蔵王系や山形系の混合もあり、日本海の庄内で育ったこけしは、思い切った感覚的な目鼻立ちと、大胆な洋花づくりの胴模様で、他に見られないポリウム感あふれる温海独特な形が完成したとのこと。写真は内閣総理大臣賞を受賞した作品と同じ。

型で、受賞は8寸(約24cm)のものです。



阿部進矢さんの木地玩具も豊富に展示され、個性ある人形が楽しめます。



## 東田川史跡物語 稲作改良碑⑤ 青山 崇

**稲作改良碑の基壇②**  
基壇の上部四方にある長方形の縁石は通称「豆腐石」(下図・大阪城の石切場跡)といわれ、容易に四角石が作りやすいのでこの名がついた。

雨水除けに設置されたが、だんだん装飾用にもなったようだ。これがなかったら、基壇でなく平凡な石垣になってしまっただろう。次に下図は基壇の隅に石垣とは違う薄い黄



稲作改良碑の基壇



北側西面



西面北隅



大阪城の石切場跡

色を帯びた石がある。これは北東隅であるが、これに続く西北隅にも同じ石があり双方の側に跨っている。薄い黄色の石は、石見石(いわみいし)といわれ、本来は墓域を示すものであった。それが基壇にも使われ、装飾にもなっているようだ。

測値をみてみよう。まず、基壇の東西南北のそれぞれの辺の長さである。東372cm、西369cm、南311cm、北369cmである。相対するのは、2、3cmの違いでほぼ同じと考えてよいだろう。しかし東西と南北では、正方形ではなく東西と南北の差は60cmほどの差がある。この差は西側を正面という当初の設計からきていると思われる。



**米不足には備蓄米を**  
総裁選を賑やかにしているメディアは、自民党に米不足の失政追及はしないんだと前回に記したが、驚いた。

▲それは、米がスーパーにないなら備蓄米を出したら?という事ではないという事だ。今からでも遅くないから、「稲刈りを地上40cmで刈って、ひこぼえ(こちらでは、二番べという)を収穫したら11月頃には不足分は獲れる」という報道なのだが、俺達はこれをどう見ればいいんだろうかと。▲米が無いとは今の事なんだヨ。備蓄米があるんだから早く出せば・の方向で話を奨めればいいものを。よくこんな報道を囷入りで出せたネーと思ったヨ。▲第一に、地上40cmで今の機械で稲刈りが出来るのだろうか。次は肥料と水の事だ。この

辺の水は、刈り取期になる前に国交省が水を止めるんだ。二番べに肥料は何時やるの? 出穂後の積算温度も。こちらでは、穂が出てから90.0℃以上が必要だから、あの放映は、収穫ほどの県辺りまでの事だったのか。こちらで青刈りした後の稔りは、鶏も喜ばないような物だったからサ。米質と食味は? ▲一回植えた稲からもう一度収穫するんだから、コストがかからないと言っていたようにだが本当? 収穫量は10%当たりどれ位なの? 二期作の方が手取りが良いと言うなら、今まで研究機関や技術屋さんは何故奨めなかったんだろうかネー。▲他には、どれ位の収穫にしろ、それが見込めるとすれば、減反面積が増えるという事になるでしょ。という事は、荒れ地が増えるという事にも。(石川)